

# 芸大の歩き方

- 上野の杜のキャンパスガイド -

## 第1回 門

歴史ゆかしい「上野」という場所に校地を構え、明治以来の伝統を誇る芸大の隠れた「名所」を毎回テーマを変えて紹介する。



国立国会図書館 上野支部



国立博物館



美術学部の門( )の変遷 (大学美術館提供)

「芸大の歩き方」の連載をスタートします。

これは芸大のキャンパス内にある庭や建物、そこに置かれた彫刻などの見所を説明していくものです。

今回は、第一回ということもあり、まずは「芸大への入り方」です。とはいえ受験生向けの、入試対策の説明ではありません(笑)。キャンパスへの入り口である「門」についてご紹介させていただきます。

芸大には、たくさん門があります。上野キャンパスは、大学としては小さく狭いですが、なんと門は一〇もあります。キャンパスの塀にそって歩いてみると、門、門、門と続いています。ただし、たいいていの門は閉じていて、普段は使われてはいません。しかし歴史的・建築的にみて魅力的なものも少なくありません。「芸大の門・見物ツアー」のお勧めのコースは、上野公園の旧奏楽堂前からのスタートでしょう。まず目に入るのが、美術学部のレンガの門( )です。向かいには、かつて京成線の駅舎として使われていた建築も残り、いわば歴史を感じる美し



上野高校



上野動物園



都立美術館

い交差点です。このレンガ造りの門は大正十一年につくられたもので、大学美術館の新設にともない取り壊されましたが、今年平成十六年に現在の場所に新たに移転されました。かつての美術学部を懐かしめる方にはうれしい復活です。この門では、レンガと木と金属と、その素材のハーモニーも鑑賞してください。

次に、美術学部と音楽学部の間にある通りを歩道に沿って歩きます。さきほどの門を手始めに、いわば「芸大門通り」の始まりです。正木記念館横を過ぎると、陳列館との間に、ギリシア建築か日本の古寺を思わせる立派な柱の門（ ）が目に入ります。この木の柱が連なる門は、現在は使われてはいませんが、かつて東京美術学校の学生がここを通っていました。芸大の伝統をいっばんに感じさせる門です。

さらに進むと、美術学部と音楽学部の門（ ）が向かい合っています。門の奥には守衛所があり、現在使われているものです。美術学部の門は、平成十一年に大学美術館の開館にあわせて作られたモダンな門です。いわば平成の芸大を象徴しています。いっぽう向かいにある音楽学部の門は、大正十一年に作られました。こちらは芸大の伝統とアカデミズムを感じさせます。この向き合う二つの門、あなたはどちらがお好きでしょうか？

ともあれ、芸大の門には、その歴史と現在がこめられています。

さあ、門を入ると、そこが芸大です。（ふせ・ひでと／美術学部助教美術術解剖学研究室）